

令和4年度（2022年度）実施報告書（総説：鳥谷智文）

本年度は、「島根半島・宍道湖中海ジオパーク地域の人々の生業と、それに関わる景観の特徴」と題して、鳥谷智文、杉谷真理子の2名により、主として近世～現代にかけての史・資料の分析を行ってきた。本年度の進捗状況は、昨年度とは違い、徐々にコロナ禍による行動制限が緩んでいったことを受け、地域住民への対面式での研究成果報告に重点を置いた。参加者は、15名程度であるが、地道に回数を重ねていくことを主眼とした。

無論、インターネットを活用した分析も継続して行った。

古代～現代の特に産業、生活、文化の特徴を担当する鳥谷は、近年史料の分析を進めている乃木公民館所蔵文書より、近世から近代にかけて乃木村の重要な産業について分析を進めていった。

島根半島・宍道湖・中海周辺における景観の特徴を担当する杉谷は、ジオパークを学ぶにあたって難解な印象を与える側面を少しでも打開する方法の一つとして、学校の校歌に注目し、郷土に関するイメージ形成を担うアイテムとしての有効性について実際の校歌からキーワードを抽出し、その特徴を示した。

研究状況の詳細は、以下に記載されている各人の実施報告書を閲覧していただきたい。

行動制限が解除されつつあるといっても、当初の研究計画にあった聞き取り調査など地域の人々の居宅へ伺い、長時間にわたり調査する活動などはできなかった。また、内部研究会も開催が叶わなかった。その中で、今回は研究代表者を中心に、公民館を拠点に、研究成果を市民へ発信できたのは成果と考える。

本年度の研究業績についても下記の各人による報告に記載している。但し、業績については、ジオパークに関連するものだけでなく、もっと大きな範囲での研究業績も含め記載している。また、業績には、従来記載していなかったが、インターネットを利用したオンライン配信についても記載した。参考にしていただければ幸いである。

1. 研究進捗状況

分析を進めている乃木公民館所蔵「旧乃木村役場文書」において、第4回内国勸業博覧会関係史料より、蚕種郵送器の製造についてまとめてみた。ブリキから製作する蚕種郵送器は、製糸業を背景とした養蚕における画期的な郵送器として勸業博覧会へ出品しようとしたが、却下された。却下の理由はわからないが、蚕種を新鮮に保つための工夫が凝らされたものであった。

また、コロナ禍であったが、徐々に行動制限が緩和される中で、乃木公民館主催の郷土の歴史教室において、内国勸業博覧会関連史料を参加者とともに読んでいき、和紙、瑪瑙、粳米、生糸など生産物について解説し、月1回程度のペースで一般市民へ研究成果を発信した。

現地での講座を積極的に実施できたことは、地域に居住する方々への研究成果の還元という意味で一定の成果と考えている。今後、研究成果をどのように地域づくりに活かしていくのか、具体的な動きを考える必要がある。

2. 業績

○著書：

- ・角田徳幸、鳥谷智文、木本泰二郎、武藤美穂子、引野道生、雲南のたたら文化、雲南市たたらプロジェクト会議、pp.1-85、2022.9

○論文・研究ノート・講演論文等：

- ・鳥谷智文：明治中・後期における田部家生産の鉄製品、鉄の技術と歴史研究フォーラム第27回公開研究発表会論文集、（一社）日本鉄鋼協会 鉄鋼プレゼンス研究調査委員会、pp.33-40、2022.11
- ・鳥谷智文：幕末・明治期における鉄師からみたたたら製鉄の経営動向、鉄の技術と歴史研究フォーラム第41回フォーラム講演会論文集 幕末・明治期の鉄研究会第2回講演会、（一社）日本鉄鋼協会 鉄鋼プレゼンス研究調査委員会、2023.1
- ・鳥谷智文：明治中・後期における田部家生産鉄の商標について、菅谷たたら山内総合文化調査報告書4、（公財）鉄の歴史村地域振興事業団、pp.1-11、2023.3（刊行予定）

○学会発表・講演等：

- ・鳥谷智文：郷土の歴史教室乃木公民館所蔵文書を読む⑥「第3回内国勸業博覧会出品物—内国勸業意博覧会関連史料から—」、郷土の歴史教室（乃木公民館）、乃木公民館、2022.9.1
- ・鳥谷智文：乃木のお宝を探そう！、乃木公民館いきいき健やか教室（乃木公民館、田和山の森）、乃木公民館、2022.9.22
- ・鳥谷智文：乃木公民館所蔵文書を読む⑦「第3回内国勸業博覧会出品物—内国勸業意博覧会関連史料から—」、郷土の歴史教室（乃木公民館）、乃木公民館、2022.10.6
- ・鳥谷智文：明治20年代後半における田部家経営鉦の操業状況、鉄の歴史村の講演会（吉田商工会館）、（公財）鉄の歴史村地域振興事業団、2022.10.8
- ・鳥谷智文：幕末・明治期における鉄師からみたたたら製鉄の経営動向、「幕末・明治期の鉄」研究会令和4年度第2回ワークショップ会議、（一社）日本鉄鋼協会 鉄の技術と歴史

研究フォーラム幕末・明治期の鉄研究会、2022. 10. 22

- ・鳥谷智文：乃木公民館所蔵文書を読む⑧「第3回内国勸業博覧会出品物―内国勸業博覧会関連史料から―」、郷土の歴史教室（乃木公民館）、乃木公民館、2022. 11. 10
- ・鳥谷智文：明治中・後期における田部家生産の鉄製品、鉄の技術と歴史研究フォーラム第27回公開研究発表会（東京工業大学大岡山キャンパス（ハイブリッド形式）、（一社）日本鉄鋼協会 鉄鋼プレゼンス研究調査委員会鉄の技術と歴史研究フォーラム、2022. 11. 12
- ・鳥谷智文：明治中・後期における田部家生産の鉄製品、令和4年度菅谷たたら山内総合文化調査会第3回検討会（鉄の歴史博物館）、（公材）鉄の歴史村地域振興事業団、2022. 11. 13
- ・鳥谷智文：明治30年代後半～大正期における田部家鉄生産と販売の推移、社会経済史学会中国四国部会2022年度（鳥取）大会（とりぎん文化会館）、2022. 11. 19
- ・鳥谷智文：乃木公民館所蔵文書を読む⑨「第3回内国勸業博覧会出品物―内国勸業博覧会関連史料から―」、郷土の歴史教室（乃木公民館）、乃木公民館、2022. 12. 1
- ・鳥谷智文：雑賀町を歩く、2022年度松江散策ツアー～下級武士・教育の町「雑賀」～（雑賀町、松江先人記念館、雑賀教育資料館）、放送大学学友会・島根学習センター、2022. 12. 3
- ・鳥谷智文：田部家のたたら経営と菅谷鉦、たたら研究会令和4年度松江大会（松江工業高等専門学校）、たたら研究会、2022. 12. 10
- ・鳥谷智文：雲南のたたら文化～たたら文化伝道師マニュアルを読む～、第2回ヘリテージツーリズムマネージャー養成講座（雲南市役所2階会議室）、雲南市たたらプロジェクト会議、2022. 12. 14
- ・鳥谷智文：松江藩釜甌方の史料と研究2―「遠所家史料」（松江歴史館所蔵）からみえる職人の動向―、島根県古代文化センターテーマ研究「鋳物と鋳物師の研究」第2回検討会（島根県古代文化センター資料整理室）、島根県古代文化センター、2023. 1. 15
- ・鳥谷智文：幕末・明治期における鉄師からみたたたら製鉄の経営動向、鉄の技術と歴史研究フォーラム第41回講演会（ハイブリッド講演会）幕末・明治期の鉄研究会第2回講演会（東京工業大学大岡山キャンパス及びオンライン配信）、（一社）日本鉄鋼協会 鉄鋼プレゼンス研究調査委員会鉄の技術と歴史研究フォーラム、2023. 1. 28
- ・鳥谷智文：乃木公民館所蔵文書を読む⑩「第3回内国勸業博覧会出品物―内国勸業博覧会関連史料から―」、郷土の歴史教室（乃木公民館）、乃木公民館、2023. 2. 2
- ・鳥谷智文：乃木公民館所蔵文書を読む⑪「第3回内国勸業博覧会出品物―内国勸業博覧会関連史料から―」、郷土の歴史教室（乃木公民館）、乃木公民館、2023. 3. 2（予定）
- ・鳥谷智文：明治前期における元鋳鉄所職人の動向、日本技術史教育学会関西支部2022年度総会・研究発表講演会（兵庫県民文化会館、ハイブリット形式）、日本技術史教育学会関西支部、2023. 3. 25（予定）

○その他：

- ・新聞記事：江戸後期の長寿番付発見、山陰中央新報、21面出雲 石見 鳥取、2022. 9. 19
- ・新聞記事：鉄師中心に文化経済発展 たたら製鉄、読売新聞、29面 島根 New 門 ニュースの門@島根、2022. 9. 26

3. 学会表彰など

なし

1. 研究進捗状況

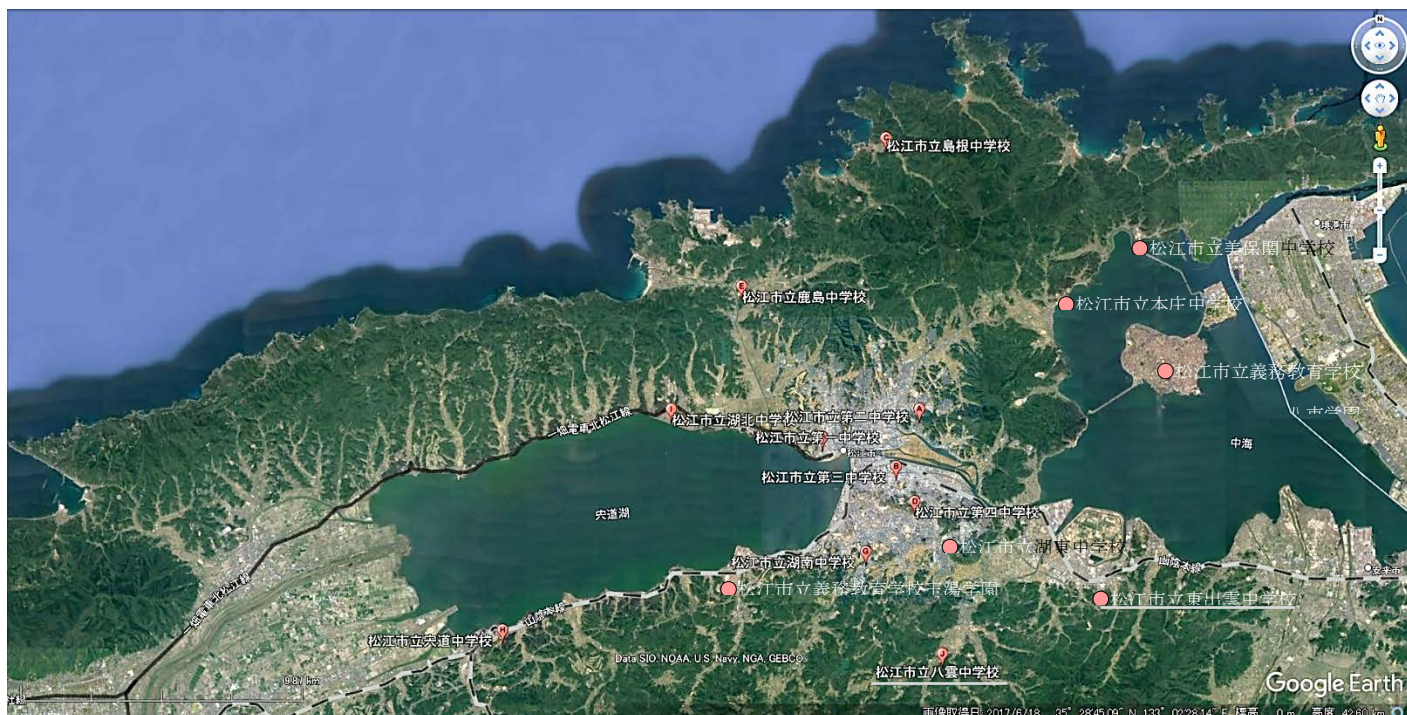


図 1 松江市立中学校の所在地 Google Earth より転載、筆者加工

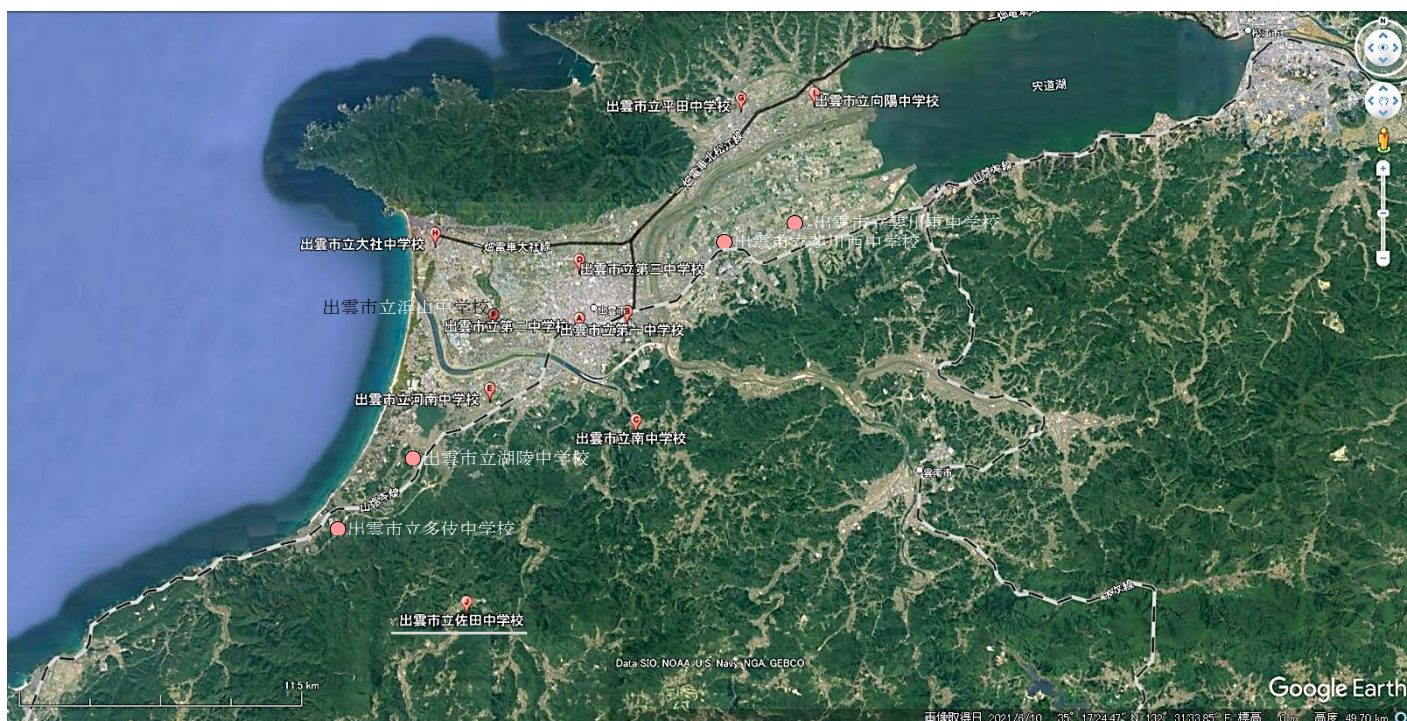


図 2 出雲市立中学校の所在地 Google Earth より転載、筆者加工

本年度は、当該ジオパークのエリアと重なる島根県松江市および出雲市の公立中学校を対象として、校歌歌詞の分析を行った。

昨年度の報告において提案した通り、一般的に校歌において描写される景観には地域性が認められており、地元で育つ子供たちの地域認識に影響していると考えられる。校歌誕生の背景や時期における役割の変遷など、先行研究において分析されており、例えば渡部(2010)や田中(2022)は、校歌に含まれるイデオロギーについて論じている。また、須田(2020a、2020b)は、校歌の普及に郷土教育運動の広がり関与していることに着目し、現在歌われている地域的独自性のある校歌がつけられた経緯を示している。これらの研究より本研究では、学校の生徒、延いては地域住民にとっての地域認識の一手段として義務教育期の校歌を位置づけ、歌詞に出現する景観描写の分析を行うこととした。今回は、学校所在地と景観描写とのおおよその関係性を把握するため、より学区の広い公立中学校を対象とし、校歌歌詞の入手にはインターネットを利用した。以下、分析の結果と考察を報告する。

図1に松江市の公立中学校16校、図2に出雲市の公立中学校14校の立地を示した。ここに挙げられている学校のうち、校名に下線が引かれているものはインターネット上での歌詞の閲覧ができず、分析不能であったものである。これらに関してデータ上では「なし」に分類することとした。校歌歌詞に出現する景観描写について、主なもの(海、川、湖、山、平野)を抜き出したものが表1～表5である。中学校ごとに上述の景観描写の語句を抜き出

表1 海に関する語句

景観描写(海)	校数
海(比喻)	1
海、岩洗う、波おと、潮の香	1
海原	1
潮の香、稲佐浜	1
潮路、錦の海	1
灘の地	1
日本海、御崎、新潮	1
日本海、波	1
白波、くだけとびちる、さざ波、寄する	1
なし	21
総計	30

表2 川に関する語句

景観描写(川)	校数
せせらぎ	1
ひの川、そそぎ	1
佐太の流れ	1
神戸の川、流れ	1
川(比喻)	1
大橋川	1
大斐伊、流れ	1
斐伊、流れ	1
斐伊川	1
斐伊川、新川	1
簸の川	1
簸川、神戸川、水	1
稗原川、神戸川	1
流れ、玉湯川	1
なし	16
総計	30

表3 湖に関する語句

景観描写（湖）	校数
みずうみ、さざなみ	1
湖	3
宍道湖、水	1
宍道湖、水の面	1
宍道湖、波、夕浪	1
出雲の湖	1
神門の湖	1
青い中海	1
なし	20
総計	30

表4 山に関する語句

景観描写（山）	校数
愛宕山、出雲富士、嶺、佐比売の山	1
宇迦の山辺	1
宇迦山	1
宇比多伎山、立久恵峡、岩	1
故郷の山	1
光る大山	1
三瓶の遠嶺、北山	1
山、北山、三瓶山	1
山は神名火、旅伏山	1
山脈	1
山野	1
出雲富士	1
出雲富士、山脈	1
出雲富士、峯	1
勝間の山、山脈	1
多伎の山々	1
大山	2
大山、愛宕の山	1
北山	1
弥山、高嶺、山なみ	1
なし	9
総計	30

表5 平野に関する語句

景観描写（平野）	校数
簸川の広野	1
簸川野	1
穂波、広野原	1
沃野、秋の田	1
(空白)	26
総計	30

表6 主な景観描写がみられた学校数（地域別）

	海に関する描写	川に関する描写	湖に関する描写	山に関する描写	平野に関する描写
出雲市	5	10	4	10	4
松江市	4	4	6	11	
総計	9	14	10	21	4

し同じ語句を使用した学校数を表わしているが、語句が複数ある場合はそれらをひとまとまりに抜き出している。なお、「(比喩)」とあるものは、文脈から具体的な対象物が確認できないものを指している。描写される景観について最も多かったのは「山」、次いで「川」に関するものである。「山」に関しては、大山や学校の周囲の山などについての言及であり、

表6より2市の間に大きな差は認められなかったが、松江市の中学校は大山に関する言及が目立つ(表7)。その一方、「川」および「平野」に関しては出雲市で出現しているものが多く、出雲平野に立地する中学校の特徴といえる。表7からは、「川」の出現が認められたとしても「斐伊川」と「大橋川」のように、立地によって描写の対象が異なることが読み取れる。「海」の描写に関しては、全体のなかでも日本海側に位置する中学校でみられることが確認できた。同様に、近場に湖がある中学校では「湖」が出現している。以上の主な景観描写の他に、各校で固有の名詞も多くみられたため、表8に示した。2市ともに神話や歴史を思わせる語句が出現

表7 各景観描写の内訳

海(比喩)	浜山中学校	出雲の湖	向陽中学校
白波、くだけとびちる、さざ波、寄する	湖陵中学校	神門の湖	湖陵中学校
海原	多伎中学校	湖	斐川東中学校
潮の香、稲佐浜	大社中学校		平田中学校
灘の地	向陽中学校	穴道湖、水	湖北中学校
日本海、御崎、新潮	美保関中学校	穴道湖、波、夕浪	松江第二中学校
海、岩洗う、波おと、潮の香	島根中学校	湖	松江第三中学校
潮路、錦の海	本庄中学校	穴道湖、水の面	松江第四中学校
日本海、波	湖北中学校	みずうみ、さざなみ	穴道中学校
		青い中海	八束学園
愛宕山、出雲富士、嶺、佐比売の山	平田中学校	川(比喩)	浜山中学校
宇迦山	大社中学校	神戸の川、流れ	河南中学校
宇迦の山辺	出雲第一中学校	斐伊、流れ	出雲第一中学校
弥山、高嶺、山なみ	出雲第二中学校	簸川、神戸川、水	出雲第二中学校
三瓶の遠嶺、北山	出雲第三中学校	ひの川、そそぎ	出雲第三中学校
北山	向陽中学校	斐伊川	平田中学校
宇比多伎山、立久恵峽、岩	南中学校	斐伊川、新川	斐川東中学校
山、北山、三瓶山	湖陵中学校	大斐伊、流れ	斐川西中学校
山は神名火、旅伏山	斐川東中学校	簸の川	湖陵中学校
山脈	湖南中学校	稗原川、神戸川	南中学校
多伎の山々	多伎中学校	せせらぎ	島根中学校
故郷の山	島根中学校	流れ、玉湯川	玉湯学園
光る大山	八束学園	大橋川	松江第二中学校
山野	玉湯学園	佐太の流れ	鹿島中学校
出雲富士	本庄中学校		
出雲富士、山脈	美保関中学校	簸川の広野	向陽中学校
勝間の山、山脈	鹿島中学校	穂波、広野原	出雲第一中学校
大山、愛宕の山	松江第一中学校	簸川野	出雲第二中学校
大山	松江第二中学校	沃野、秋の田	出雲第三中学校
	松江第四中学校		
出雲富士、峯	松江第三中学校		

出雲市
松江市

し、また「緑」といった自然に関するものもみられる。特に松江市においては、「松」の描写が特徴的といえよう。これらの語句は曲調とともに、各校の校歌を固有のものとする役割を担っていると推察できる。

ここまでみてきたように、分析対象の中学校では、島根県東部の景観的特

徴だけでなく、学区レベルでの地域の描写の違いが確認できた。中学校入学後に練習の時間が設けられ、その後も節目節目で触れることの多い校歌に、景観や自然現象、地域の歴史が織り込まれ意味付けされている点で、校歌が地域理解の面で果たす役割は決して小さくはない。また、ジオスポットそのものでなくとも、地形的特徴に関連のある語句も散見された。この点に着目し、生徒たちにジオパークへの興味関心を持たせたり、学習の機会を設けたりする手法を検討することも十分に有益であると考え。今後のジオパーク学習に関して、学校教育における地理教育や地域学習からのアプローチが期待できるといえる。

参考文献：

須田珠生(2020a)『校歌の誕生』人文書院

須田珠生(2020b)「近代日本の小学校にみる校歌の歌詞の変容と郷土との関わり」音楽教育学第49-2. pp13-24

田中健次(2022)『図解 近現代日本音楽史』東京堂出版

渡辺裕(2010)『歌う国民』中公新書

2. 業績

○学会発表等 今年度はなし

表8 その他の描写の語句

日照が丘、杵築の宮	出雲第一中学校	ぼたん	八束学園
若あゆ	出雲第二中学校	岸辺の松、御手洗の滝、里田	島根中学校
八重雲、雪、明かき大地、八雲	出雲第三中学校	花、うみの空、平和な里	玉湯学園
丘、緑、多伎の里	多伎中学校	お城、水の都、阿羅波比、森、松	松江第一中学校
みどり、青葉	平田中学校	東の空、松江城東、嵩のみどり	松江第二中学校
丘、みどり、山川	湖陵中学校	緑の木かげ、花	松江第三中学校
国引き	浜山中学校	松原、緑、若草、丘	松江第四中学校
真幸ヶ丘	河南中学校	松風、砦	鹿島中学校
神名火、緑	斐川西中学校	神話の香	宍道中学校
穂波、樹々、城の跡	南中学校	風土記の丘、遺蹟、みどりの松	湖南中学校
緑、笹百合、大地	向陽中学校	緑の島	本庄中学校
緑なす、山河	斐川東中学校		

出雲市

松江市